



Vol.45 2015年11月1日
 会報・人間工学専門家認定機構編集委員会

▶ 専門家からの報告

高齢社会にむけた専門家養成

田中敏明

(北海道科学大保健医療学部理学療法学科・
 東京大学高齢社会総合研究機構)

現在、北海道科学大学保健医療学部理学療法学科において理学療法士の教育に携わりつつ、東京大学高齢社会総合研究機構（以下、高齢機構）において院生の教育研究にも関わっている。どちらも2期生までが入学したフレッシュな状況である。特に高齢機構における大学院プログラムとは、超高齢社会をむかえる日本において、高齢者が活力を持って地域社会の中で生活でき、かつ、高齢者自身の生活の質を高め、家族と社会の負担を軽減し、社会全体の活力を維持向上するため、高齢機構を中核に9研究科29専攻が関わり、修士博士一貫の大学院教育により活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダーを養成しようとするものである。理学療法学の専門家として理学療法士養成に関わるのは経験があるので大きな支障はないのだが、高齢機構における文理融合、異種異能の院生を育てるプログラムに関わるのは当初戸惑いもあった。ただ、20年以上にわたり高齢者・障がい者の健康医療福祉機器開発に関わってきたなかで高齢者に関わる研究は多々実施してきたので、高齢者のヘルス・リハビリテーションに現場に必要な知識、経験、技術に関しては伝えることができるのではと思いつき取り組んでいる。高齢者・高齢社会というキーワードを中心とした文理融合な研究であるため院生指導においても全く専門外の研究内容に関わりつつ高齢者にとってこの研究は貢献できるのか学問として成り立つのかを院生のプレゼンテーションを聞きながらアドバイスをすることは、専門が近い分野同士なら話は早いですが専門が異なる場合、なかなか難しい。わかりやすく学問的・科学的に指導することの難しさを感じている。逆に、専門外の学生とディスカッションをすることにより、他分野の知識を理解しつつ高齢者のためにという点で

アドバイスできるかを考察していくうちに自分にとっても新しい視点での研究が見えてくる場合があり、教員というよりは一研究者として興味深く関わっている自分がいる。1期生は3年半後には修業していくが、高齢者に関わる何らかの専門家になり社会に貢献して欲しいし、今までにない新しい学問体系が構築できればと思っている。

執筆者自己紹介

田中敏明：理学療法士、博士（工学）。現在、東京大学高齢社会総合研究機構特任教授、北海道科学大保健医療学部教授。主に高齢者・障害者のための保健・医療・福祉に関する機器開発研究。日本理学療法士協会会員、日本リハビリテーション工学協会会員、日本人間工学学会会員、独立行政法人日本学術振興会科学研究委員会専門委員、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)技術評価委員。

▶ 報告

IEA2015 シンポジウム

“International cooperation on certification of professional ergonomists”

福住伸一（NEC／副機構長）

日時：2015年8月11日 12:45-14:15, 14:45-16:15
 場所：メルボルンコンベンション&エキジビジョンセンター、オーストラリア

3年に一度開催される第19回IEA国際大会において、“International cooperation on certification of professional ergonomists”というタイトルでシンポジウムを企画・開催した（共同提案者は、IEA理事でブラジル人間工学会長の Prof. Jose Orlando Gomes）。この企画の発端は、人間工学専門家の活動をより広く認知してもらうことやグローバル対応が国内で話題となったことから、他の人間工学関連専門家組織の活動を知り、交流の場を儲けようと考えたことである。まず昨年7月にPolandで開催された Applied Human Factors and Ergonomics AHFE2014において“The Role and Functions of Professional Certifications Organizations”というセッションを企画し、そこで6か国7件の発表があり、それぞれの立場での発表及びそれに向けた議論が行われた[1]。その際、Prof. Gomesより、次のIEA2015に繋がりたいという強い要望があり、早い段階から各国に働きかけ、CPEについてのリーダー的存在であるBCPE（アメリカ）やCREE（ヨーロッパ）、これからさらに強くしていきたいと考えているカナダや、IEA開催地域で他との交流が地理的に難しいオーストラリアやニュージーランド、産業的に

今後重要な地域となる BRICS（ブラジル、インド、南アフリカ。ロシアは予算の都合で不参加、中国はプログラムの関係で直前キャンセル）や中米の中心メキシコ、日本の HCD-Net と CPEJ と合計 11 件の参加を得ることができた。

これだけの発表件数なので、当然のことながら 1 時間半の枠では収まらず、2 コマを使わせてもらうという贅沢なシンポジウムの中、狭い部屋ながら 25 名程度の聴講者もあり、盛況であった。ディスカッションの時間が 20 分程度しか残らず、討議のポイントが資格認証の仕組みについてのみとなってしまうが、内容としては、アメリカの重鎮から BCPE をベースに制度をそろえればよいのではないかと意見があったが、CREE、インドのみならず BCPE からも多様性のある人達を対象にそれは無理だということでもとまった。グローバルの観点からそれぞれの活動を認識するという点では、目的は達成できたと言える。今後、今回参加しなかったシンガポールやマレーシアなども巻き込み、IEA として人間工学専門家がどうあるべきかを考えていくこととなり、本シンポジウムで目指していた国際連携を強化するというの実現が一步進んだようである。具体的には、IEA の中に専門家資格に関する委員会が設立され、IEA 参加国全体で専門家資格について討議することとなった。これらの活動も活用し、機構に属する専門家の方々が今後さらにグローバルな視点で活動を広げていかれることのお役に立てば幸いであり、またそのようになることを期待する。

本件は、予算その他で機構の支援の下で活動した。ここに謝意を示す。



写真：発表者及び運営に関わってくださった方々
(写真掲載は全員の了解を得ている)

[1] 福住伸一：人間工学専門家認定機構の国際連携－AHFE2014 での企画セッション報告、人間工学、Vol.50, No.5, pp307-308, 2014.

▶ 報告

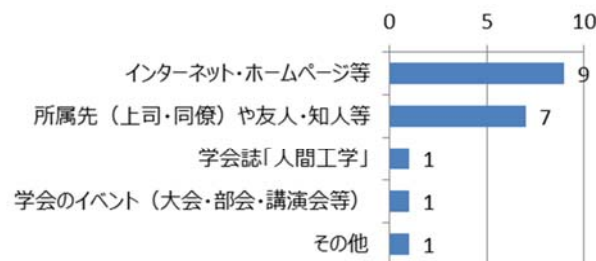
A 方式認定試験についてのアンケート

今年度の A 方式認定試験(筆記+小論文+面接)は、9月5日、芝浦工業大学で実施されました。受験さ

れた皆様に、専門家資格制度についてのアンケートをお願いしたところ、13 名の方から、回答をいただきましたので、その結果を報告します。

(グラフ内の数字は回答者人数です。自由回答文は要約してあります。)

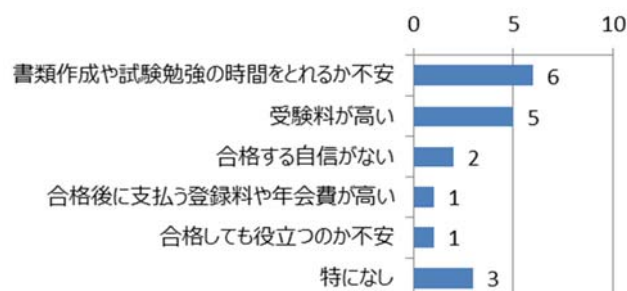
【1】この試験(資格制度)をどこで知りましたか？
(※複数選択可)



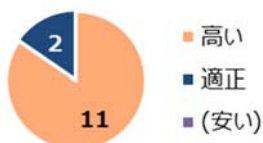
【2】受験してみようと思ったきっかけを、具体的に教えてください

- ・キャリアアップ、仕事に活かすため (3 人)
- ・仕事で必要と感じた、有効活用できそうと考えた
- ・業務上、資格取得を上司に提案された
- ・社内で、この資格が直接関係するため
- ・海外での人間工学関連業務に資格取得が必要
- ・より知識を得られる機会がほしかった
- ・受験に必要な業務歴に達したため
- ・自身の人間工学の知識や経験力を試すため
- ・人間工学について再度きちんと勉強するきっかけ(目標)になると思った
- ・準専門家の認定を受けた時に「認定専門家を目指してください」とあり、受験したいと考えていた
- ・業務の質を高めるための自己研鑽、人脈形成、成果物への信頼性向上、社外へのアピール等
- ・プロフェッショナルとして知識や経験を一般化したいと思った

【3】受験しようと思った時に、躊躇することはありましたか？(※複数選択可)



【4】受験料(30,000円)についてどう思いますか？



(適正と思う受験料:1~2万円前後:5人、無回答:8人)

【5】所属する組織の支援等があれば教えてください(受験費用の負担、先輩の指導、等)

- ・受験費用等の負担(4人)
- ・初回受験のみ交通費・受験料負担
- ・会社の推奨資格になっている

【6】試験や認定機構(CPE)へのコメントなどあればご自由にお願いたします

- ・東京以外でのイベントが少ない
- ・人間工学の関連情報をもっとアピールしてほしい
- ・筆記試験の問題や解答に誤記があり、修正が必要
- ・関西にも受験会場があると受験しやすくなる
- ・試験は、勉強する際の良い目標になっている
- ・資格取得後のセミナー情報やイベントなど、もっと世の中に認知されると良い
- ・試験に関する情報(試験時間や出題数など)を公開していただけるとよい
- ・押印が必要な書類は別送するとしても、電子申請システムのようなものがあると便利

アンケートでのご意見は、今後、制度や運営の参考として活用したいと思います。会報編集委員会では、今後も随時、専門家の皆様からのご意見を、お待ちしております。

(報告:事務局:米倉裕美、松本啓太)

●お知らせ

機構の前身である認定人間工学専門家部会の初代部会長を務められました藤田祐志氏が、8月に行われた国際人間工学連合(IEA)の会長選挙におきまして、第19代IEA会長に選出されました。

下記IEAサイトに、新役員として初めてのメッセージが掲載されています。

<http://www.iea.cc/>

また、会報の下記号には、藤田氏にご寄稿、ご講演いただいた記事が掲載されています。

- Vol.1(2004年11月)、Vol.10(2007年2月)、
- Vol.12(2007年8月)、Vol.23(2010年5月)、
- Vol.27(2011年5月)

●人間工学専門家交流会(CPEサロン)

11月28日(土)15時から、芝浦工業大学(芝浦キャンパス)において、人間工学専門家交流会(CPEサロン)を行います。今回のテーマは、「自動車業界での人間工学の活用」で、数名からの話題提供、ディスカッション、フリートークを予定しています。詳細は、ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.ergonomics.jp/cpe/event/1294>

●日本人間工学会関東支部第45回大会

12月12日(土)~13日(日)、東京電機大学(埼玉・鳩山キャンパス)において、日本人間工学会関東支部第45回大会が開催されます。大会では、人間工学専門家認定機構の企画するセッションを計画中です。決定次第、機構のウェブサイトに掲載します。

<https://www.ergonomics.jp/cpe/>

●専門家の新規登録

(50音順、敬称略)

【認定人間工学専門家】

(9月1日認定)大野央人、水本徹、村木里志、横山詔常

(11月1日認定)太田智子、葛原昌司、小島孝之、嶋田倫博、中尾勇介、蜂須賀知理、廣江貴則、深澤伸一、真塩健二、簗輪要佑、山下咲衣子

【認定人間工学準専門家】

(9月1日認定)久保綾加、志村恵、鈴木康弘、本田美和子

○会報、編集委員会へのご意見、情報提供は

e-mail: cpenewsletter@ergonomics.jp

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-10-16

赤坂スクエアビル 2F 日本人間工学会事務局

会報・人間工学専門家認定機構編集委員会

【編集委員会メンバー】

松本啓太(編集委員長)、青木和夫、城戸恵美子、斉藤進、藤田祐志、吉武良治

【会報バックナンバー】

<https://www.ergonomics.jp/product/newsletter.html>